

第30回（'19）

書学書道史学会大会

於：東京国立博物館（平成館大講堂）

今年度の大会は、10月26日（土）・27日（日）の両日、東京国立博物館（平成館大講堂）において開催します。日程の詳細が決まりましたので、ご案内申し上げます。研究発表に加え、第30回大会を記念したシンポジウムおよび講演会を企画いたしました。多数のご参加をお待ちしております。

【10月26日（土） 1日目】

- 11：00～12：50 理事会（小講堂）
12：50～ 受付開始（大講堂前）
13：20～14：20 開会式・総会・特別表彰（大講堂）
14：30～16：00 第30回大会記念シンポジウム（大講堂） ※聴講無料（諸条件あり、ホームページにて要確認）
「書学書道史研究の課題」
司会：中村伸夫（筑波大学）
パネラー：河内利治（大東文化大学） 富田 淳（東京国立博物館）
信廣友江（安田女子大学） 笠嶋忠幸（出光美術館）
16：10～17：40 第30回大会記念講演（大講堂） ※聴講無料（諸条件あり、ホームページにて要確認）
「近百年の中日書法交流について」
講演者：蘇士澍 氏（中国書法家協会主席）
通訳担当者：張莉 氏（大阪教育大学）
18：00～19：30 懇親会（グレースバリ上野公園前店 TEL：0120-706-736）

【10月27日（日） 2日目】

- 09：00～ 受付開始（大講堂前）
09：30～12：10 研究発表（大講堂）
①09：30～10：00 「黄腸石の文と刻——任城漢墓及び北莊漢墓の「薛〇〇」を中心に」
安藤喜紀（大東文化大学大学院生）【司会：小川博章】
②10：00～10：30 「雁塔聖教序・記の複雑刻について ——筆画に沿う極細線の意味を考える——」
池田絵理香（大東文化大学大学院生）【司会：鍋島稲子】
③10：30～11：00 「第五回内国勸業博覧会と付博覧としての書画」
前川知里（大東文化大学大学院生）【司会：高橋利郎】
11：00～11：10 休憩
④11：10～11：40 「後漢時代の鎮墓瓶における書法の二系統性について」
井田明宏（筆の里公房）【司会：矢野千載】
⑤11：40～12：10 「二つの墨跡本「神龍半印蘭亭序」をめぐって」
志民和儀（日本習字教育財団）【司会：菅野智明】
12：10～13：30 記念撮影・昼食
13：30～14：30 研究発表（大講堂）
⑥13：30～14：00 「和刻本「淳化閣帖」の伝本系統に関する一考察 ——惺堂旧蔵掖齋本を中心として——」
下田章平（相模女子大学）【司会：柿木原くみ】
⑦14：00～14：30 「日本書論から見る王羲之〈書聖〉考」
永由徳夫（群馬大学）【司会：森岡隆】
14：30～15：20 招待発表（大講堂）
「殷周金文の復元鑄造」 山本堯氏（泉屋博古館学芸員）
15：20～ 閉会式（大講堂）
総合文化展自由参観（平成館）